

中橋

〔慶長見聞集一〕江戸の川橋にいわれ有事

かたへなる人云略中廣橋細橋などいふこそ聞もとなへもやさしき名也と云、

〔八雲御抄地儀上〕橋 中

〔藻鹽草橋五〕中橋

〔天和志城上十二〕關梁 天神橋中橋伊勢橋已上在初瀬村

〔慶長見聞集一〕江戸の川橋にいわれ有事

かたへなる人云、今江戸の橋廣大にして長く、みな板橋に欄杆所々に銅のぎぼうしあつて、見よしといへども、橋の名を聞ばとなへいやしく、いなかびれておかしかりき、古より聞傳へし名所橋多し、唐橋は山城に在、みはし、内橋、雲のかけ橋は禁中の事とかや、古歌に、わかめかる春にもなれば、鶯の木傳ひわたる天の橋立と詠せり、宇治橋、瀬田長橋、廣橋、細橋などいふこそ聞もとなへもやさしき名也と云、老人聞て、いや江戸の橋の名笑ひ給ひそ、昔の橋の名も一ツ橋、丸木橋、竹橋、中橋、堀江橋、皆是名所にて、歌によみたり、此橋の名、今江戸の都に出来たれば、詩人歌人などか此橋に詠吟なかるべき、

廣橋

〔八雲御抄地儀上〕橋 ひろ

〔和爾雅地下一〕未勣在何國 廣橋

〔萬葉集東歌十四〕相聞

比呂波之乎、宇馬古思我禰氏己許呂能未、伊母我理夜里氏和波己許爾思天、

〔萬葉集略解十四下〕此ひろばしぐさト、説有先づ翁の説、廣橋ならば渡がたからじ、然ば呂は

良の意にて、一枚の打橋をいふべしといはれき、契沖は廣さ一尋計の橋を云べしといへり、宣長は此橋は間をおきて石を並べたる石橋にて、其間々の廣さを云なるべし、